

## 2020 年度実施概要

学校名

那智勝浦町立下里小学校

採択活動名

もっと もっと、ふるさと“那智勝浦” “和歌山”の海を知ろう！

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. うみのいきものを いっぱい みてみよう！	1・2年	生活科
2. くじらの博物館へ行こう！	3・4年	総合
3. 養殖・栽培漁業体験学習 ～クロマグロ完全養殖について調べよう～	5・6年	総合

取り組みの概要

本校は、児童数86名（家庭数65）の小規模校である。校区は海岸線に面し、漁港、養殖場、海水浴場、磯場、ウミガメが産卵する砂浜を有し、学校近くを太田川、日本一短い川「ぶつぶつ川」が流れる恵まれた自然環境の中にある。漁港を有する地区にはかつて小学校があり、漁業に携わっている保護者もいたが、児童数の減少により本校と統合した。したがって、現在は保護者には水産関係への就労者はなく、子供たちの海とのつながりは決して高いとはいえない。また、10年前の紀伊半島大水害による河川氾濫により、河口付近に堤防工事が施されたこと、地震の際の津波襲来等を考えると、子供たちだけで磯場や砂浜で遊んだりすることも少なくなってきた。加えて、インターネットや携帯ゲームの普及により遊びが変化し、子供たちが海や海洋生物と親しむ機会は減少する一方である。そこで、恵まれた自然環境や生命の多様性、産業を理解すると共に、体験学習を通して海洋への関心と理解を高め、未来の地域・社会を担う人の育成を目指す取組を、本校の教育活動の特色の1つとして推進している。

取組を進めるにあたって、これまでの成果を基に、地域の自然環境を最大限に活用し、子供たちが様々な体験学習を行うことを全学年の共通項目とした。小規模校の特性を活かして、低・中・高と2学年単位で取り組み、授業者が協議しながら計画を進め、円滑に実践できる体制を今年度も継続した。

しかし、年度初めに新型コロナウイルス感染症感染防止のため緊急事態宣言が発令され、海での体験活動がいちばん楽しめ、海に親しむことができる春～夏の時期を、臨時休業、分散登校、活動の制限等の中で過ごし、当初の計画を一から練り直すこととなった。何とか9月半ばより、体験活動を取り入れた学習ができるようになったが、活動の中止や縮小をせざるを得なくなってしまった。

出来る範囲内で工夫を凝らしての取組となったが、育みたい資質、能力、態度は変えず、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」の4観点を柱とし、国語科、社会科、理科、生活科等の学習と関連させ、主体性と表現力の育成を目指した。特に、低学年では「見る」「触れる」などの感覚的な体験、中学年では「見る」「触れる」「聞く・話す」「書く」という知識の習得や理解に重点を置いた学習を展開した。高学年ではさらに「調べる」「まとめる（書く）」ことに時間を配分した。

活動の中止や縮小により、本来目指していたところに到達できなかった反省が残るが、児童は生き生きと活動し、海洋の時間を楽しみに学習している。

活動中の写真

デジタルデータにて2〜3枚の添付をお願いします。

(本ファイルへの貼り付け、別ファイルでの添付、どちらでも構いません)

### くじらの博物館へ行こう！（3・4年生）



### 養殖・栽培漁業体験学習

～クロマグロ完全養殖について

調べよう～（5・6年生）

